

中部地方整備局岐阜国道事務所は26日、女性が働きやすい現場に向けた取り組みの一環として、若手技術者や学生らが参加した現場見学会と意見交換会を開催した。先輩技術者として土



ニューマチックケーンソンの現場を見学

木技術者女性の会中部支部（水野香織支部長）から2人が参加。講演で水野支部長は「業種や人によって問題はさまざま。男女関係なく健康で安全に働ける環境づくりが必要」と強調した。

見学会は、岐阜県大野町で施工中の「東海環状自動車道尾根川橋右岸P160橋脚工事」の現場で実施。工事概要は延長100m、ニューマチックケーンソンの基礎1基、RC橋脚1基。

女性活躍 疑問はまず自分で調べて 技術者と学生が意見交換

中部整備局
岐阜国道

参加したのは、岐阜国道事務所的女性職員2人、同事務所発注の工事に携わる施工者とコンサルタントが10人、岐阜大学院生2人と岐阜工業高等専門学校生2人の計16人。そのほか、土木技術者女性の会中部支部のメンバーも参加した。

オリエンタル白石が施工を担当しており、ニューマチックケーンソ工法による下部工の概要などを同社の川口綾夏さんが説明した。同事務所内で行われた講演では、水野支部長が自己紹介も交えながら土木技術者女性の会の歴史、活動内



働きやすい現場へ意見交換

容などを説明。女性技術者として国土交通省初のトンネル工事現場監督を務めた先輩技術者の苦労なども紹介しながら「現在も女性の就業制限はある。就業面など疑問に思うことがあれば、まず自分で調べてみる

ことが必要」とアドバイスした。

意見交換では「ニューマチックケーンソンの現場を初めて見ることができてよかった」女性技術者が多くいることが分かり安心した。「社内に女性が少ない、会社も環境改善へ手探りの状態」などの意見が出された。学生からは「4月から建設業界で働くが、仕事のイメージができた」とする声もあった。同事務所は、女性が働きやすい現場の実現に向け今後も女性目線の現場パトロールなどを継続。勉強会なども通じ、現場の環境改善提案なども行っていくと意気込みを述べた。

